

令和4年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等：国際交流センター

---

事業担当者の職・氏名：福岡昌子

---

内線電話番号： 9698

---

電子メール：fukuoka.cie@mie-u.ac.jp

---

2. 事業の名称（20字以内、別に副題を付けても良い）

海外協定校の参加学生による Zoom ディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解 2022  
（日本語ディスカッション 2022）

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

#### 4. 事業の取組結果

### 海外協定校の参加学生による Zoom ディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解 2022 (日本語ディスカッション)

国際交流センター 福岡昌子

#### (1) 事業概要

海外協定校の学生の日本語力の向上および学生相互の交流や異文化理解、留学生の獲得を目的に、昨年度に引き続き 2022 年度も、オンラインで「海外協定校の参加学生による Zoom ディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解 2022(日本語ディスカッション)」を実施した。

#### (2) 事業の背景・これまでの実績

日本語教育を中心とした三重大学における国際交流事業の実績は下記の通りである。

- ①「ボランティア日本語教師養成講座 実践：日本語教育」(2004)『2004 年度 三重大学国際交流基金国際交流事業、600 千円。
- ②『実践：日本語教育 I & II 2007』(2007) (I. ボランティア日本語教師養成講座『実践日本語教育シンポジウム』、II. 『夏休みの宿題の助っ人：留学生の母語による学習支援』)『2007 年度 三重大学国際交流基金国際交流事業、600 千円。
- ③「国際交流および日本文化学習のための京都研修－幕末～明治維新を留学生と共に学ぶ－」(2010)『三重大学国際交流基金国際交流事業』、40 千円
- ④「日本語教育を軸とした相互交流促進のための外国人教員短期招聘事業」(2020)、『三重大学国際交流事業経費助成』、150 千円
- ⑤「海外協定校の参加学生による Zoom ディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解 (日本語ディスカッション) (2021)、『三重大学国際交流事業経費助成』、30 千円
- ⑥「北京外国語大学：語学研修 & フィールドスタディ」(2022) 『三重大学国際交流事業経費助成』、50 千円

#### (3) 事業実施結果

##### (3) -1. 実施概要

- ・実施日程：2022 年 11 月 9 日～2023 年 1 月 25 日、16 時 20 分～17 時 50 分、合計 9 回
- ・参加大学および参加人数：ハイデルベルグ大学 2 名 (ドイツ)、安徽農業大学 8 名・江蘇大学 2 名 (中国)、国立高尾師範大学 1 名 (台湾)、ホーチミン師範大学 5 名 (ベトナム)、サンパウロ大学 1 名 (ブラジル)、パジャジャラン大学 5 名 (インドネシア)、Maejo 大学 1 名 (タイ)、三重大学 3 名 (日本)、合計 8 か国 28 名。
- ・内容：①海外の協定校の学生と三重大学の日本人学生が、互いに異文化の視点を尊重し、日本社会や文化について学び、Zoom でディスカッションする。②受講者は、社会や文化に対する観察力を磨き、自分の考えをまとめて発表する力を養う。
- ・主なスケジュール：第 1 回～第 3 回 オリエンテーション、ディスカッションの進め方、座長グループ決め、4 回～第 8 回：各座長グループ主導によるディスカッション、第 9 回 フィードバック、入賞者発表、Zoom 交流、アンケートの提出

・座長グループが提案したテーマ：「結婚前に同棲は必要か否か」、「小学生にスマホを持たせるべきか否か」、「趣味を仕事にすべきか」、「プラスチックストローを廃止すべきか否か」、「人間力の前に言語力（外国語と母語）が大事だ」という意見に賛成か否かについて、毎回グループに分かれてディスカッションした。

### 結婚前の同棲は必要か否か



シェファー アリナ、川端真由加、クルークアントニウス

### 趣味を仕事にすべきか

発表者：胡凱瑜  
Gabriel Alves dos Santos de Souza  
汪思雨  
何運  
蔡一恒

### 1. 小学生スマホの使用状況

Chart 1: お子さまにスマホを持たせるようになった理由は何ですか？

理由	割合
ゲームをするため	53%
学校での活動のため	49%
コミュニケーションが得意になるため	43%
友達から勧められているため	33%
友達と遊ぶため	32%
興味があるからプレイにアクセス	26%
SNSでビデオを見る/視聴するため	19%
自分一人で何かをするため	13%
他人とゲームをするため	12%
友達と遊ばせてもらうから	8%
プレイ/コミュニケーションが得意になるため	8%
その他	1%

2021年の調査結果によると、8歳から12歳までのスマホを持っている子供の割合は61%ということです。その上、6歳の時前にスマホを持っている子供の割合は11%だそうです。

【出典: Kasequery daily "Raising the smartphone generation".  
<https://www.kasequery.com/blog/digital-habits-reports-2021/>】

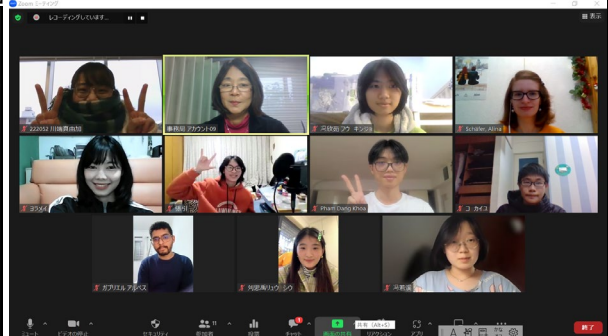
### プラスチックストローを廃止する問題

- I. プラスチックストローのメリットとデメリット
- II. ストローの使用廃止を発表した日本で有名な企業
- III. プラスチックストローの代替商
- IV. プラスチックストローを廃止した後の結果
- V. 評価のポイント & ディスカッション

### 「人間力」の前に「言語力」が大事か

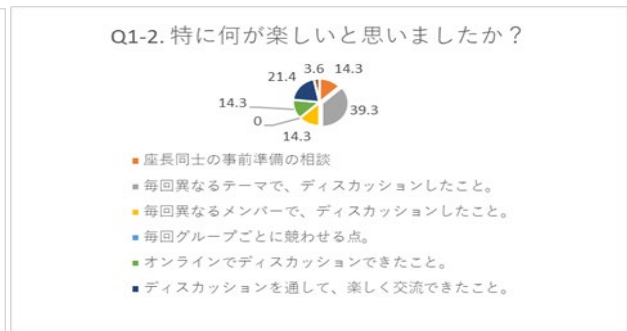
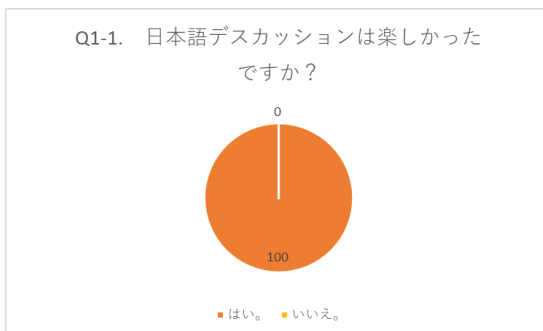
THE PROFESSIONAL POWERPOINT TEMPLATE

チョウイン チョウイク フウヤク ユカイ ノール・ツァァ ウダミ ドア

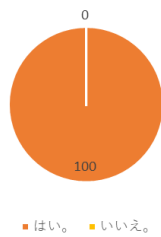


### (3) -2. アンケート結果

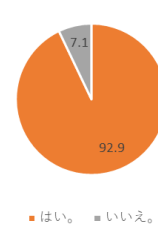
『日本語ディスカッション』アンケートは 22 項目からなるが、9 項目の結果を示す（出席率 60%以上からの受講者の回収率 100%）。



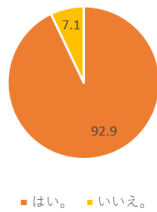
Q1-3.この講座の運営方法はよかったですか。



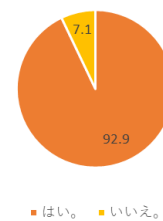
Q2-1.異文化の視点を尊重できるようになりましたか？



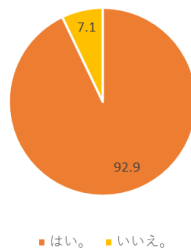
Q2-2.現代の日本社会と日本文化について理解が深まりましたか？



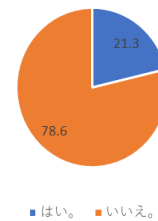
Q2-3.自分の考えをまとめて、日本語で発表し、意見を言えましたか？



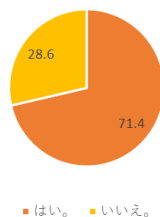
Q2-4.日本語が上達しましたか？



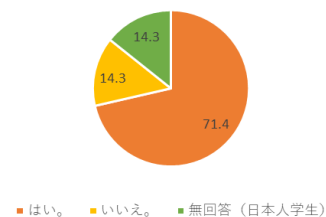
Q3-1.全部で9回の日本語ディスカッションは長かったですか？



Q3-2.単位が互換できる授業になるといいと思いますか？



Q3-3.本授業を受けて三重大学（大学院）へ留学したくなりましたか？



#### Q25. その他感想から

- ・日本語レベルが N3 なのに「日本語ディスカッション」に参加し、日本語で皆さんと会話できてとてもうれしかったです。この体験を機会にもっと日本語を勉強します（ブラジル）。
- ・参加国の皆さんの国の文化や考え方について理解が深まりました。楽しい授業でした（ドイツ）。
- ・言語は交流の道具です。「日本語ディスカッション」をきっかけに、違う国や文化の人と交流する機会をもらいました。一生忘れない体験だと思います（中国）。
- ・異なる国の人と話し合えてとても楽しかったです。会話の練習もできて友達もできました。議論の場でもっと自分の意見を言えなかったのが残念でしたが、いい体験でした（中国）。
- ・幸いにもこの授業に参加することができ、異なる国の学生と一緒に討論し意見を分かち合うことができました。先生が内容をレビューすることもあり、誰もが自分の意見を述べる機会があり、授業が充実しているように感じます（中国）。

- ・最初は先生の話していることがわからなかったのですが、徐々に聞き取れるようになりました。とても有意義な討論で、異なる国の学生達と授業を受けることができ嬉しかったです(中国)
- ・今まで1人で日本語を勉強していたから、文法も正しくないし語彙力も足りなかった。でも、皆優しく接してくれて感謝しています。これからも日本語頑張ります(台湾)
- ・授業は中国より面白く、こんなディスカッション式の授業な希有なチャンスです。私はよくオンライン授業をしていますが、毎回期待する気持ちで参加した授業は初めてです(中国)。
- ・海外の大学と交流する機会をはじめでした。私の語学力の欠如のために、スムーズに交流できなかったことが残念でしたが、これからも引き続き参加して自分の能力を鍛えます(中国)。
- ・このプログラムに参加できて嬉しかったです。先生と新しい友達に出会って日本語が上達しました(インドネシア)。
- ・この授業を通して、自分の日本語のレベルがまだ足りないことに気づきました。もっと日本語を勉強したいです。新鮮なことがたくさんあって面白かったです(中国)
- ・海外の文化の違いを発見することは難しかったですが、普段の生活では関わることができない海外の方とお話しできたことが良かったです(日本)

#### (4) 事業の意義

(3) で報告した結果から、本事業の意義として次の4点が挙げられる。

- ①本学の学生と協定校の学生との相互交流や異文化理解に貢献できた。
- ②コロナ禍において留学できずにいる協定校の留学生の日本語力の向上、学ぶ機会を提供することができた。
- ③三重大学(大学院)へ留学希望した学生は71.4%だった(日本人学生の回答を除く)。今後本事業を継続・実施することで、留学生の獲得に期待できる。
- ④海外協定校との国際交流を持続発展させることができた。

#### (5) 事業の発展性

事業の発展性として、下記の4点が考えられるが、今後も事業の発展性を考えたい。

- ①本事業を継続させることによって三重大学(大学院)への留学生の獲得に貢献できる。
- ②協定校との国際交流を持続発展させることができる。
- ③日本人学生の海外留学支援及び留学生の支援を推進できる。
- ④世界で活躍できるグローバル人材を育成することができる。

#### (6) 中期目標・中期計画における位置づけ

下記の第4期中期目標・中期計画の1(8)①③④に該当すると思われる。

##### I 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

(8)-1 国内外において、グローバルな視点を持って国際的に活躍できる人材を育成するため、国際共修授業である COIL 授業を充実させるとともに、(中略)優秀な留学生を戦略的に獲得・教育していくために、日本語教育プログラムを充実させる。

- ① 文化や言語の異なる学生が参加する COIL 授業 を含む科目を5科目以上に増加させる。③ 在籍する外国人留学生の割合について、コロナ禍での実績と比較して、10%以上向上させる。④ 学部・大学院在籍中にオンラインを含めた短期留学・派遣・国際イベント(部局企画)等を経験する学生の割合について、コロナ禍での実績 と比較して、10%以上向上させる。

以上

## 5. 事業に係る経費執行結果

事業費		事業費の内訳	
		助成金額	自己負担額
①+② (千円)		① (千円)	② (千円)
経費区分	金額 (千円)	積算内訳	
1) 旅費			
2) 消耗品	7000 円	参加記念品代 (伊勢型紙葉)	
	14900 円	EMS 国際郵便発送代 (担当者宛て書類、参加記念品送付代含む) (ドイツ、中国、台湾、ベトナム、ブラジル、インドネシア、タイ、日本)	
	4800 円	消耗品 (送付用写真用紙、ポストイット他)	
3) 役務	3300 円	翻訳校正費	
4) 謝金			
合計	助成分 30,000 円		

## 令和4年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

### 海外協定校の参加学生による Zoom ディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解 2022

#### （日本語ディスカッション）

国際交流センター 福岡昌子

#### （1）事業概要

海外協定校の学生の日本語力の向上および学生相互の交流や異文化理解、留学生の獲得を目的に、昨年度に引き続き 2022 年度も、オンラインで「海外協定校の参加学生による Zoom ディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解 2022(日本語ディスカッション)」を実施した。

#### （2）事業の背景・これまでの実績

日本語教育を中心とした三重大学における国際交流事業の実績は下記の通りである。

- ①「ボランティア日本語教師養成講座 実践：日本語教育」（2004）『2004 年度 三重大学国際交流基金国際交流事業、600 千円。
- ②『実践：日本語教育 I & II 2007』（2007）（I. ボランティア日本語教師養成講座『実践日本語教育シンポジウム』、II. 『夏休みの宿題の助っ人：留学生の母語による学習支援』）『2007 年度 三重大学国際交流基金国際交流事業、600 千円。
- ③「国際交流および日本文化学習のための京都研修－幕末～明治維新を留学生と共に学ぶ－」（2010）『三重大学国際交流基金国際交流事業』、40 千円
- ④「日本語教育を軸とした相互交流促進のための外国人教員短期招聘事業」（2020）、『三重大学国際交流事業経費助成』、150 千円
- ⑤「海外協定校の参加学生による Zoom ディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解（日本語ディスカッション）（2021）、『三重大学国際交流事業経費助成』、30 千円
- ⑥「北京外国語大学：語学研修&フィールドスタディ」（2022）『三重大学国際交流事業経費助成』、50 千円

#### （3）事業実施結果

##### （3）-1. 実施概要

- ・実施日程：2022 年 11 月 9 日～2023 年 1 月 25 日、16 時 20 分～17 時 50 分、合計 9 回
- ・参加大学および参加人数：ハイデルベルグ大学 2 名（ドイツ）、安徽農業大学 8 名・江蘇大学 2 名（中国）、国立高雄師範大学 1 名（台湾）、ホーチミン師範大学 5 名（ベトナム）、サンパウロ大学 1 名（ブラジル）、パジャジャラン大学 5 名（インドネシア）、Maejo 大学 1 名（タイ）、三重大学 3 名（日本）、合計 8 か国 28 名。
- ・内容：①海外の協定校の学生と三重大学の日本人学生が、互いに異文化の視点を尊重し、日本社会や文化について学び、Zoom でディスカッションする。②受講者は、社会や文化に対する観察力を磨き、自分の考えをまとめて発表する力を養う。
- ・主なスケジュール：第 1 回～第 3 回 オリエンテーション、ディスカッションの進め方、座長グループ決め、4 回～第 8 回：各座長グループ主導によるディスカッション、第 9 回 フィードバック、入賞者発表、Zoom 交流、アンケートの提出

・座長グループが提案したテーマ：「結婚前に同棲は必要か否か」、「小学生にスマホを持たせるべきか否か」、「趣味を仕事にすべきか」、「プラスチックストローを廃止すべきか否か」、「人間力の前に言語力（外国語と母語）が大事だ」という意見に賛成か否か」について、毎回グループに分かれてディスカッションした。

### 結婚前の同棲は必要か否か



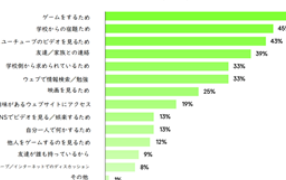
シェファアー アリナ、川端真由加、クルークアントニウス

### 趣味を仕事にすべきか

発表者：胡凱瑜  
Gabriel Alves dos Santos de Souza  
汪思雨  
何運  
蔡一恒

### 1. 小学生スマホの使用状況

Chart 1: お子さまにスマホを持たせるようになった理由は何ですか？



理由	割合
ゲームをするため	53%
学校での連絡のため	49%
YouTubeなどの学習コンテンツのため	43%
友達/家族との連絡	39%
学校制から決められているため	33%
ウェブで検索機能/動画	32%
連絡が楽なアプリにアクセス	26%
SNSでビデオを見る/検索するため	19%
誰か一人だけ持っているため	13%
他人とゲームをするため	12%
友達と遊ばせてもらうから	8%
YouTube/Instagramなどのアプリを見るため	8%
その他	1%

2021年の調査結果によると、8歳から12歳までのスマホを持っている子供の割合は61%ということです。その上、6歳の時前にスマホを持っている子供の割合は11%だそうです。

【出典: Kasequry daily "Raising the smartphone generation".  
<https://www.kasequry.com/blog/digital-habits-reports-2021/>】

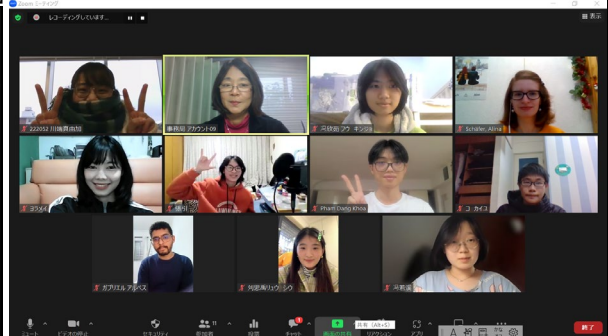
### プラスチックストローを廃止する問題

- I. プラスチックストローのメリットとデメリット
- II. ストローの使用廃止を発表した日本で有名な企業
- III. プラスチックストローの代替商
- IV. プラスチックストローを廃止した後の結果
- V. 評価のポイント & ディスカッション

### 「人間力」の前に「言語力」が大事か

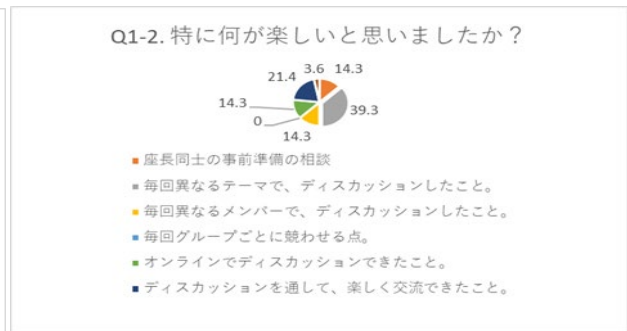
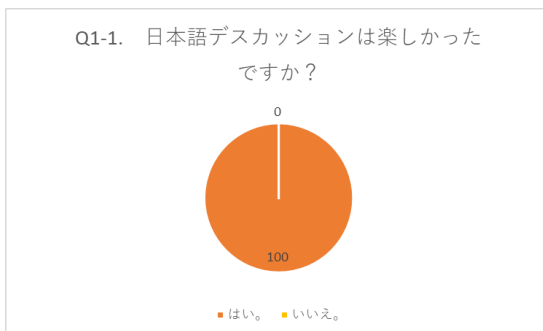
THE PROFESSIONAL POWERPOINT TEMPLATE

チョウイン チョウイク フウヤク ユカイ ノール・ツァー ウダミ ドア

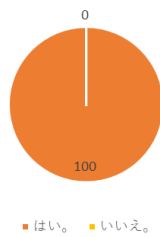


### (3) -2. アンケート結果

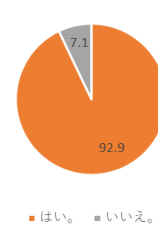
『日本語ディスカッション』アンケートは 22 項目からなるが、9 項目の結果を示す（出席率 60%以上からの受講者の回収率 100%）。



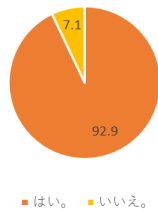
Q1-3.この講座の運営方法はよかったですか。



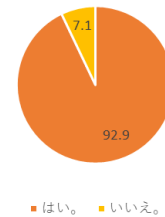
Q2-1.異文化の視点を尊重できるようになりましたか？



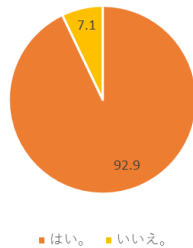
Q2-2.現代の日本社会と日本文化について理解が深まりましたか？



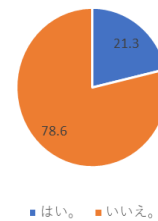
Q2-3.自分の考えをまとめて、日本語で発表し、意見を言えましたか？



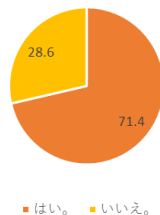
Q2-4.日本語が上達しましたか？



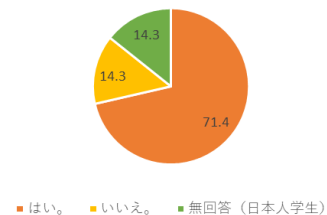
Q3-1.全部で9回の日本語ディスカッションは長かったですか？



Q3-2.単位が互換できる授業になるといいと思いますか？



Q3-3.本授業を受けて三重大大学（大学院）へ留学したくなりましたか？



#### Q25. その他感想から

- ・日本語レベルが N3 なのに「日本語ディスカッション」に参加し、日本語で皆さんと会話できてとてもうれしかったです。この体験を機会にもっと日本語を勉強します（ブラジル）。
- ・参加国の皆さんの国の文化や考え方について理解が深まりました。楽しい授業でした（ドイツ）。
- ・言語は交流の道具です。「日本語ディスカッション」をきっかけに、違う国や文化の人と交流する機会をもらいました。一生忘れない体験だと思います（中国）。
- ・異なる国の人と話し合えてとても楽しかったです。会話の練習もできて友達もできました。議論の場でもっと自分の意見を言えなかったのが残念でしたが、いい体験でした（中国）。
- ・幸いにもこの授業に参加することができ、異なる国の学生と一緒に討論し意見を分かち合うことができました。先生が内容をレビューすることもあり、誰もが自分の意見を述べる機会があり、授業が充実しているように感じます（中国）。

- ・最初は先生の話していることがわからなかったのですが、徐々に聞き取れるようになりました。とても有意義な討論で、異なる国の学生達と授業を受けることができ嬉しかったです(中国)
- ・今まで1人で日本語を勉強していたから、文法も正しくないし語彙力も足りなかった。でも、皆優しく接してくれて感謝しています。これからも日本語頑張ります(台湾)
- ・授業は中国より面白く、こんなディスカッション式の授業な希有なチャンスです。私はよくオンライン授業をしていますが、毎回期待する気持ちで参加した授業は初めてです(中国)。
- ・海外の大学と交流する機会をはじめででした。私の語学力の欠如のために、スムーズに交流できなかったことが残念でしたが、これからも引き続き参加して自分の能力を鍛えます(中国)。
- ・このプログラムに参加できて嬉しかったです。先生と新しい友達に出会って日本語が上達しました(インドネシア)。
- ・この授業を通して、自分の日本語のレベルがまだ足りないことに気づきました。もっと日本語を勉強したいです。新鮮なことがたくさんあって面白かったです(中国)
- ・海外の文化の違いを発見することは難しかったですが、普段の生活では関わることができない海外の方とお話しできたことが良かったです(日本)

#### (4) 事業の意義

(3) で報告した結果から、本事業の意義として次の4点が挙げられる。

- ①本学の学生と協定校の学生との相互交流や異文化理解に貢献できた。
- ②コロナ禍において留学できずにいる協定校の留学生の日本語力の向上、学ぶ機会を提供することができた。
- ③三重大学(大学院)へ留学希望した学生は71.4%だった(日本人学生の回答を除く)。今後本事業を継続・実施することで、留学生の獲得に期待できる。
- ④海外協定校との国際交流を持続発展させることができた。

#### (5) 事業の発展性

事業の発展性として、下記の4点が考えられるが、今後も事業の発展性を考えたい。

- ①本事業を継続させることによって三重大学(大学院)への留学生の獲得に貢献できる。
- ②協定校との国際交流を持続発展させることができる。
- ③日本人学生の海外留学支援及び留学生の支援を推進できる。
- ④世界で活躍できるグローバル人材を育成することができる。

#### (6) 中期目標・中期計画における位置づけ

下記の第4期中期目標・中期計画の1(8)①③④に該当すると思われる。

##### I 教育研究の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

(8)-1 国内外において、グローバルな視点を持って国際的に活躍できる人材を育成するため、国際共修授業である COIL 授業を充実させるとともに、(中略)優秀な留学生を戦略的に獲得・教育していくために、日本語教育プログラムを充実させる。

- ① 文化や言語の異なる学生が参加する COIL 授業 を含む科目を5科目以上に増加させる。③ 在籍する外国人留学生の割合について、コロナ禍での実績と比較して、10%以上向上させる。④ 学部・大学院在籍中にオンラインを含めた短期留学・派遣・国際イベント(部局企画)等を経験する学生の割合について、コロナ禍での実績 と比較して、10%以上向上させる。

以上

**Cross cultural exchange by participating in Japanese language Zoom discussions with students at overseas partner schools (Discussion in Japanese) 2022**

**Fukuoka Masako (Center for International Education and Research)**

**(1) Implementation:**

Continuing from the previous year, in 2022, we held an online “Learning Japanese and about Japan via Zoom Discussions with Students of Overseas Partner Universities” for the purpose of improving the Japanese language skills of students at overseas partner universities, promoting mutual exchange and understanding of different cultures, and attracting international students. Under the title “Language and Cross-Cultural Understanding 2022 (Japanese Discussion)” the program was delivered

**(2) Project implementation results**

**(2) -1 Implementation details**

- Schedule: November 9, 2021 to January 25, 2023, 16:20 to 17:50, 9 sessions in total
- Participating universities and number of participants: University of Heidelberg 2 (Germany), Ho Chi Minh City University of Education 5 (Vietnam), Maejo University 1 (Thailand), National Sun Yat-sen University 1 (Taiwan), Universidade de São Paulo 1 (Brazil), Universitas Padjadjaran 5 (Indonesia), Guangxi University 3 (China), Guangxi University 2 (China), Anhui Agricultural University 8 (China), Mie University 3 (Japan), which was 28 people from 8 countries in total.

(1) Students from overseas partner universities and Japanese students at Mie University will respect each other's different cultural perspectives, learn about Japanese society and culture, and have discussions on Zoom. (2) Participants will hone their powers of observation about society and culture and cultivate the ability to organize and present their own thoughts.

- Contents: ① Students from overseas partner universities and Japanese students from Mie University will explore each other's perspectives on different cultures, learn about Japanese society and culture, and have discussions on Zoom. ② Students will improve their ability to observe society and culture, and develop the ability to summarize and present their thoughts.

- Main schedule: 1st to 3rd orientation, how to proceed with discussion, chair group decision, 4th to 8th: discussion led by each chair group, 9th feedback, winner announcement, Zoom exchange, Submission of the questionnaire.

- Themes proposed by the chair group: "Do we need to live together before marriage?", "Should elementary school students have smartphones?" and "Do you agree or disagree with the opinion that linguistic ability (foreign language and mother tongue) is more important than human ability?"

## 結婚前の同棲は必要か否か

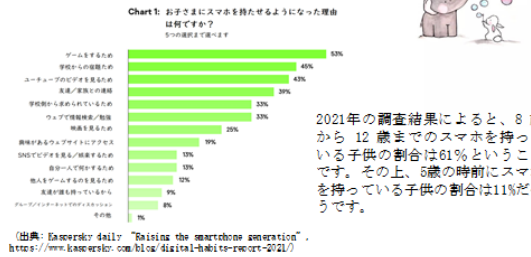


シェフアー アリナ、川端真由加、クルークアントニウス

## 趣味を仕事にすべきか

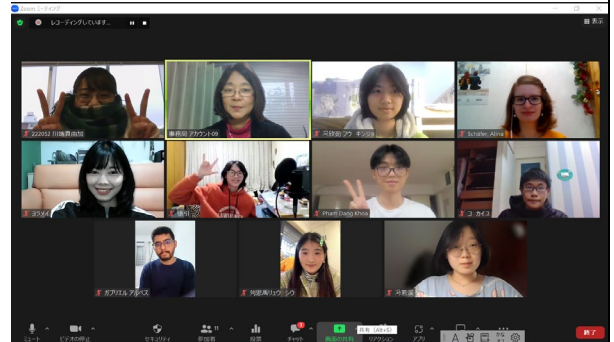
発表者：胡凱瑜  
Gabriel Alves dos Santos de Souza  
汪思雨  
何彦  
蔡一恒

### 1. 小学生スマホの使用状況



### プラスチックストローを廃止する問題

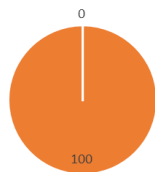
- I. プラスチックストローのメリットとデメリット
- II. ストローの使用廃止を発表した日本でも有名な企業
- III. プラスチックストローの代替商
- IV. プラスチックストローを廃止した後の結果
- V. 評価のポイント & ディスカッション



### (2) -2 Questionnaire results

The "Japanese Discussion" questionnaire consisted of 22 items, but the results of 9 items are shown (100% return rate for participants with an attendance rate of 60% or higher)

Q1-1. 日本語ディスカッションは楽しかったですか？



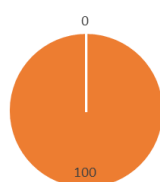
■ はい。 ■ いいえ。

Q1-2. 特に何が楽しいと思えましたか？



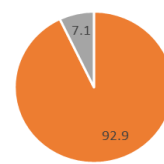
- 座長同士の事前準備の相談
- 毎回異なるテーマで、ディスカッションしたこと。
- 毎回異なるメンバーで、ディスカッションしたこと。
- 毎回グループごとに競わせる点。
- オンラインでディスカッションできたこと。
- ディスカッションを通して、楽しく交流できたこと。

Q1-3. この講座の運営方法はよかったですか。

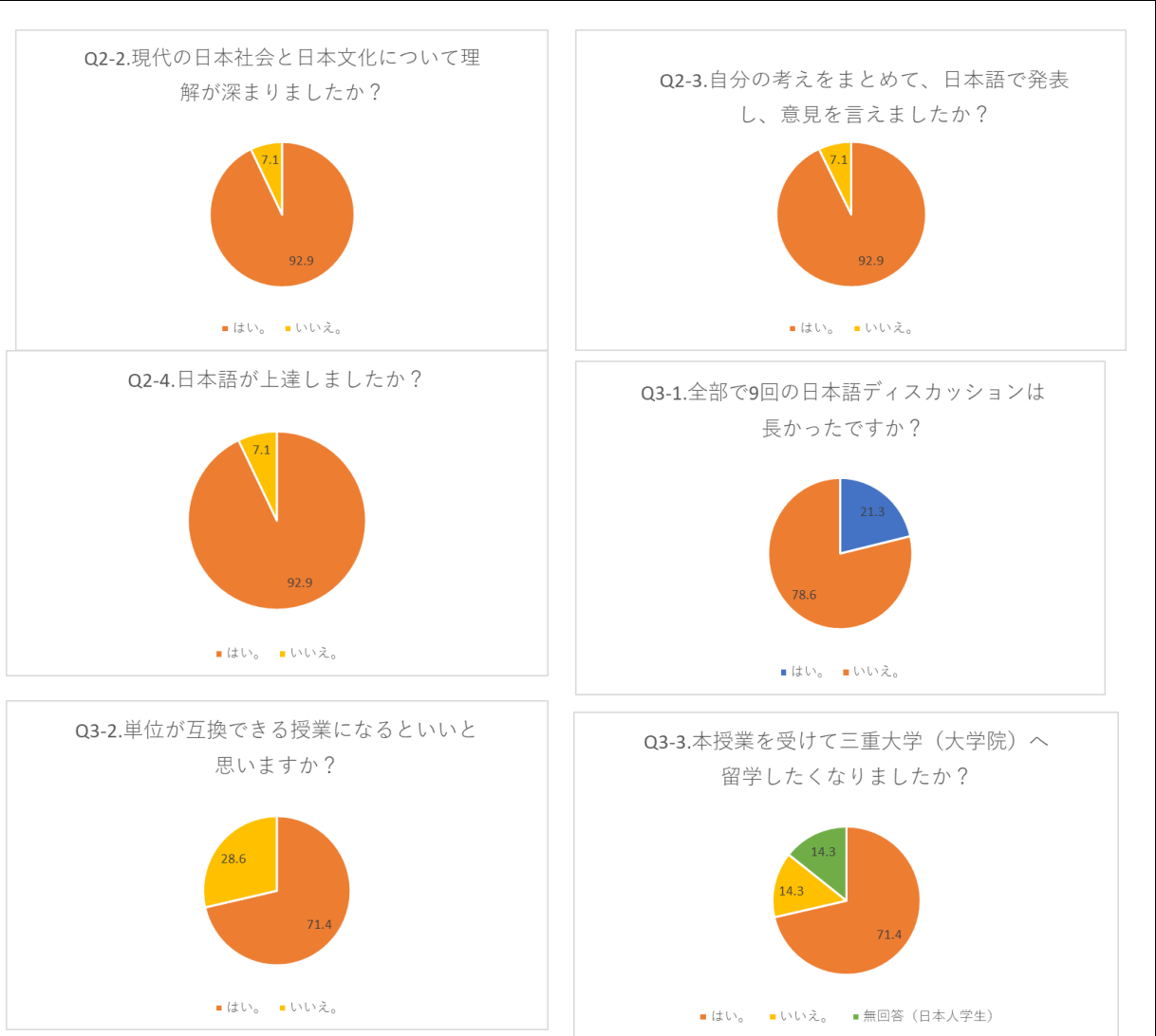


■ はい。 ■ いいえ。

Q2-1. 異文化の視点を尊重できるようになりましたか？



■ はい。 ■ いいえ。



**Q25.Other impressions**

- Even though my Japanese level is N3, I was very happy to be able to participate in the “Japanese Discussion” and have conversations with everyone in Japanese. I will use this experience as an opportunity to study Japanese more (Brazil).
- I deepened my understanding of the culture and way of thinking of the participating countries. It was a fun class (Germany).
- Language is a tool for communication. The “Japanese discussion” gave me the opportunity to interact with people from different countries and cultures. I think it’s an experience you’ll never forget (China).
- It was a lot of fun to talk with people from different countries. I was able to practice my conversation and make friends. It was a pity that I could not express my opinion more during the discussion, but it was a good experience (China).
- Fortunately, I was able to participate in this class and was able to discuss and share opinions with students from different countries. Teachers sometimes review the content, so everyone has the opportunity to express their own opinions, and I feel that the classes are fulfilling (China).
- At first, I didn’t understand what the teacher was saying, but gradually I became able to understand what he was saying. It was a very meaningful discussion, and I was happy

to be able to take classes with students from different countries (China).

• Until now, I had been studying Japanese by myself, so my grammar was not correct and my vocabulary was insufficient. But thank you for being so kind to everyone. I will continue to do my best in Japanese (Taiwan)

• The classes are more interesting than in China, and this is a rare opportunity for a discussion-style class like this. I often take online classes, but this is the first time I have participated in a class with high expectations every time (China).

• It was my first opportunity to interact with an overseas university. It was a pity that I could not communicate smoothly due to my lack of language skills, but I will continue to participate and improve my skills (China).

• I was happy to participate in this program. I improved my Japanese by meeting a teacher and new friends (Indonesia).

• Through this class, I realized that my Japanese level is still insufficient. I want to study Japanese more. It was interesting because there were a lot of new things (China)

• It was difficult to discover the differences in foreign cultures, but it was great to be able to talk with people from other countries that I would not be able to interact with in my daily life (Japan).

### **(3) Significance of business**

Based on the results reported in (3), the following four points can be cited as the significance of this project.

① I was able to contribute to mutual exchange and cross-cultural understanding between the students of our university and those of our partner universities.

② We were able to improve the Japanese language skills of international students at partner universities who were unable to study abroad due to the corona crisis, and provided them with opportunities to learn.

③ 71.4% of students wished to study abroad at Mie University (graduate school) (excluding responses from Japanese students). By continuing and implementing this project in the future, it can be expected to attract foreign students.

④ I was able to sustainably develop international exchanges with overseas partner universities.

### **(4) Business development potential**

We can consider the following four points as the business development potential, but we would like to continue to consider business development potential in the future.

① By continuing this project, we can contribute to attracting international students to Mie University (graduate school).

② International exchanges with partner universities can be sustainably developed.

③ Promote support for Japanese students studying abroad and support for international students.

④ Develop global human resources who can play an active role in the world.

### **(5) Positioning in mid-term goals and mid-term plans**

It seems that it corresponds to 1 (8) ① ③ ④ of the 4th medium-term target / medium-term plan below. Measures to be taken to achieve goals related to improving the quality of education and research:

(8)-1 In order to cultivate human resources who can play an active role internationally with a global perspective both in Japan and overseas, we will enhance COIL classes, which are international co-learning classes, and as a result strategically recruit excellent international students. And we will enhance the Japanese language education program in order to educate about Japan as well as Japanese language.

① Increase the number of subjects including COIL classes in which students from different cultures and languages participate to 5 or more subjects. (3) Increase the percentage of foreign students enrolled by at least 10% compared to the results during the COVID-19 crisis. ④ Increase the percentage of students who experience short-term study abroad, dispatch, international events (organized by departments), etc., including online, by 10% or more compared to the results during the COVID-19 pandemic while enrolled in undergraduate and graduate schools.